

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第1講 「研究」とは何か

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 『講義概要』 記載情報 + α

- ◆ 到達目標: 知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。
- ◆ 目的・概要: 「研究」とは、答えるに値する問いをみつけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。
- ◇ 教科書: 佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 (第2版) 慶應義塾大学出版会。(そのほか、授業での課題・宿題をとおして、各自で既存の研究成果を探して読むことになります)
- ◇ 成績評価方法: 授業中の課題と宿題 (50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問 (50% : 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)
- ◇ 備考: 受講人数や各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります (受講者の都合にあわせて日時を設定)。

2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 卒業論文を書くまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

3 授業予定

- (1) イントロダクション: 「研究」とは何か [10/5]
- (2) 卒業論文・修士論文について発表 [10/12, 19]
- (3) 図書館見学実習 [10/26]
- (4) 研究テーマについて面談 [11月上旬]
- (5) 第2講 本を読む (1): 速読 [11/9]
- (6) 書店実習 [11/16]
- (7) 第3講 本を読む (2): 精読 [11/30]
- (8) 第4講 アイディアの創出 [12/7]
- (9) 第5講 議論を組み立てる [12/14]
- (10) 第6講 プロジェクトとしての研究 [12/21]
- (11) 期末レポートについて面談 [12月末]
- (12) 発表会 [1/11, 18]
- (13) 口頭試問 [1/25]

※ 使用施設の都合などで、予定を変更する場合があります

4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示、教務係前の掲示板、学務情報システム (緊急時) によります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

6 レポートのフォーマット

- 問い
 - その背後にある大きな問い
 - 問いの学問的背景
 - 問いの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

7 今日の課題

卒業論文または修士論文から自分の興味に合ったものを一つ選ぶ。配布した一覧表を参考にすること。
日本語教育学研究室の卒業論文・修士論文は貸出禁止 (閲覧・コピーは可)。

- 2001年度以降は資料室 (201) に保管
- 2000年度までは文学部棟 630 室に保管
- 2017年度からは電子版ファイルも保存している (共有フォルダ内)

8 宿題

自分の選択した卒業論文／修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

発表は2回にわたって行う予定であるが、資料は全員作ってこよう。5分以内で内容を説明できるように。
論文を読むにあたっては、教科書 pp. 84-90 を参考にすること。

現代日本論基礎講読「研究法入門」

卒業論文・修士論文について発表

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 各自の選択した卒業論文／修士論文について、5分以内で内容を説明。その後自由に討論(3分)。

名札作成 → 毎回 (互いに覚えるまで) 持ってくること

1 課題

各自の選択した卒業論文／修士論文について、5分以内で内容を説明。その後自由に討論。説明のポイントは次のとおり：

- 自分の関心について (兼自己紹介)
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

次回まわしになった人は、再度資料を作ってきてください (A4用紙1枚にまとめるのがのぞましい)

2 「議論」のふたつのモード

- 結論を出すための議論
- アイディアを出すための議論

今日は後者のモードで

3 論文のまとめかたについて

「問い」と「答え」はできるかぎり簡潔に

- 論文のどこからとるか?
- 複数ある場合も

「問い」を理解するのに必要な予備知識と、「答え」を正当化するための根拠は、すべて記述すると膨大になる

- その分野では普通の知識とそうでないもの
- 発表の際は、重要性に応じてとりあげる
- 調査や実験を行った論文の場合、対象者や方法について簡単に説明すること

批判と発展の可能性について

- 方法・技術についての批判
- 論理に基づいた批判
- 他の研究との比較
- 対象の拡大
- 別の問いへの発展

論文の書誌情報をきちんと書くこと。(著者名、表題、年)

4 日本語教育学専修の卒業論文について

4.1 テーマ

過去の卒業論文の研究テーマはさまざま。日本語の教育に関するものは意外にすくない。多いのは日本語、日本語学習環境 (ボランティアや年少者の問題を含む)、ひろく日本社会に関するもの (ファッションから家族問題まで)。

4.2 方法論

質問紙調査、インタビュー、メディア分析 (日本語教科書を含む) が多い。そのほかに2次データ分析 (社会調査データやコーパスの2次利用)、実験、参与観察、理論研究が少数。

4.3 卒論執筆のスケジュール

例年の卒業論文関連行事は次のような内容 (<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/nik/gakubu/sotsuron.html>)

4-5月: 構想発表会

6月: 中間発表会

10-11月: 題目提出、最終発表会

11月: ドラフト (草稿) 提出

1月初旬: 卒業論文提出

1月末-2月: 論文発表会、口頭試問

これ以外に、4年生と教員による状況報告会 (「卒論ゼミ」と呼んでいる) を行うことがある (年によってちがう)。

5 本のみつけかた

現在の学問の分野は「○○学」「○○論」といった専門分野に非常に細かくわかれている。自分の興味と学問の体系を結びつけて、どの研究分野でどのような研究がおこなわれているかを把握していくとよい。

本を探すにあたっては、その研究分野の基礎知識から身につけていくこともできるし、自分の興味のある具体的な問題に直接取り組むこともできる。

研究に関する本は、研究者向けに書かれたものから、一般の人を想定読者層とするものまで、さまざまである。最初のうちは、研究者向けの、いわゆる「学術書」よりは、基礎的なことを幅広く扱った入門書・教科書・新書などを読むのがよい。

最初のうちは避けたほうがよいもの: 論文集、資料集、事典、講演録

6 次回予定

つぎのものを持ってくること

- 自分が興味をもっている、学術的な内容の本 (自分からみてちょっとむずかしいくらいの水準のもの)
- その本の書誌情報のメモ

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第2講 本を読む (1): 速読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 読書記録と速読の方法

1 本を読むモード

教科書 pp. 83-90

- 速読 (今日やること)
- 精読
- 批判
- 利用

2 課題

各自で探してきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること (あるいは面白い発見) はどれか。その根拠となるのは何か

3 書誌情報

- 書誌情報をどこから採るか (奥付の利用)
- シリーズ・叢書など
- 版
- 目次・索引・序文など
- 初出・履歴の情報

文献の情報 (書誌情報: bibliography) をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。日本語教育学研究室では、本の書誌情報はつぎのように書く。

著者 (出版年) 『書名』 出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに () でくくって示す。

4 読書メモと情報の整理

- 読みながらの記録 (付箋・書き込みなど)
- 目次への書き込み
- 速読カード (教科書 p. 104) などへの記録と保存

5 速読の場合に読みとるべきこと

- 部や章の構成と、各章の役割
- キーワード
- 問いと答えのセット
- 根拠の基礎となる理論やデータ

6 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

課題: 各自の持ってきた本について、キーワードを抜き出してみる

何に注目すればこれらを読みとれるか?

- タイトルなどに出てくることば
- 太字、かぎ括弧、文字種、傍点、下線などによる強調
- 他の文章にはふつう出てこないようなことばが、その文章には繰り返し出てくる場合
- 外国語表記をともなうことば

7 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 → キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる → セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

8 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

9 次回の予定：図書館見学

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証（図書館入館証）をもってくること

見学内容と目的：

- (1) 2号館の経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 書庫の使いかたについて講義と見学
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (5) 図書貸出
- (6) 解散

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか？
- 分類記号・請求記号の仕組み
- 静かに、節度を守って探索すること

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。今回の授業はこのガイダンスを兼ねているので、受講することで、書庫に入れるようになる（授業翌週から）。

10 研究テーマについて面談

各自の研究テーマについての面談を個別におこないます。10/29-11/8の適当な時間（30分程度）で予定をそれぞれ決めてください。

現代日本論基礎講読「研究法入門」

図書館見学実習

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 図書館の使いかた

1 図書館見学

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証 (図書館入館証) をもってくる

見学内容と目的:

- (1) 2号館の経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 書庫の使いかたについて講義と見学
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (5) 図書貸出
- (6) 解散

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか?
- 分類記号・請求記号の仕組み
- 静かに、節度を保って探索すること

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。今回の授業はこのガイダンスを兼ねているので、受講することで、書庫に入れるようになる (翌日から)。

2 今後の予定

11/2 は休講です (大学祭のため)。そのかわり、個別に日時を決めて、研究テーマ決定のための面談をおこないます (10/29-11/8 の適当な時間で、30分程度)。

11/9 は、本の一部に注目しての「精読」をおこないます。次のものを用意してください。その本の実物も持ってくる。

- 本の中から、自分が注目したい部分 4-9 段落程度をえらぶ
- A3 用紙の中央にうまく配置してコピーする。必要があれば図や表なども一緒に。上下左右に大きく余白をとること

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第3講 本を読む (2): 精読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 文章を細かいところまでちゃんと読む

1 今日の課題

1.1 事前準備

自分の興味ある本から4-9段落程度をコピーする。A3用紙の中央にうまく配置する。必要があれば図や表なども一緒にコピーしておく。上下左右に大きく余白をとること。

1.2 授業中の課題

各段落の「キーセンテンス」を蛍光ペンなどでマーク。

わからない語・句・節・文などを○や下線でマーク。必要に応じて、これらの○や下線に番号や記号をつける。これらについての疑問点を余白に書く。「わからない」とは、単独で意味不明なもののほか、「語Aと語Bの違いがわからない」「下線Xと下線Yは矛盾してないか?」「キーセンテンスと関係なさそう」といったことを含む。

疑問点をどのようにすれば解決できるかを考える（本のほかの部分を見る、索引を引く、ほかの文献を読む、辞書で調べる、人に聞く、など）。

実際に調べたり考えたりして、わかったことを余白に書き入れていく。

ある程度できたら、他の人に見せて意見をもらう。たとえば、疑問点が正しく解消できているか、解消できていない疑問点についての意見、疑問点としてあがっていない部分についての質問、など。

1.3 宿題

- (1) もらった意見と、授業後に調べたことを総合して、余白にすべて書く。結局わからなかったことについても、なにがわからないかと、どう調べればわかる可能性があるかを書く。
- (2) 各段落が何をいおうとしているかを、別の用紙にまとめる。短文でも、箇条書きでも、図解でもよい。1年後に自分自身が読み直して、記憶を呼び戻せるように書くこと。用紙いちばん上にその本の書誌情報を書く。

教科書 p. 86, 103-105 を参考にする。

2 情報の蓄積と整理の方法

- 本を読む習慣をつけること
- 雑誌と雑誌論文について
- その他の情報源
- 文献を読むときのメモ → 下線を引く、付箋を貼る、目次にメモ、コピーや写真を撮るなど
- 情報の整理 → ノートやカードの蓄積、デジタル技術の活用 (日経 BP 社, pp. 24-29)
- 書誌情報と現物の保管 → 文献整理ソフトの利用、本棚やコピー収納場所の確保
- 文献探索の方法 → 日本語教育学のページ <<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>> や図書館の冊子『情報探索の基礎知識』 <<http://www.library.tohoku.ac.jp/literacy/kisochishiki.html>> を参照

3 来週の予定

来週は、東北大学生協文系書籍店で、本を探す実習をおこないます。10:30に観察室に集合。

文献

日経 BP 社 (2010) 『実践ノート&書類術』 (日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ) 日経 BP 社.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

書店実習

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 東北大学生協文系書籍店で本を探す実習

[10:40] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[11:40] 教室に戻り、探した本について情報交換 (書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモを提出)

まず、店内の全体を回って、どのような配置になっているかを把握すること (おおむね、分野別の本が左側、新書や文庫が右側に配置されており、雑誌のコーナーが真ん中にある)。

自分の興味のある本を適当にさがす。手に取って、立ち読みしてよい。よさそうな本については、奥付を見て書誌情報を控える。

- 内容の見当を短時間でつけるには、どう読めばよいか? → 目次、前書き、あとがき、索引、参考文献の活用

静かに、節度を守って探索すること

2 次回予定

つぎのものを持ってくること

- 自分が興味をもった本の書誌情報のメモ
- 現物 (買うか図書館で借りる)

今日の実習でじゅうぶんに探せなかった場合は、各自で空き時間に探しておくこと。

なお、東北大学附属図書館の所蔵は、<http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/> で検索できる。

第4講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

1 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイディアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい (月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

2 KJ法

教科書 pp. 110-116

- マインドマップとはちがい、こまかいところからつくりはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

3 類似の手法

- 問いと答えのリスト
- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ
- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる

4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

5 文献

- 月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ ”かき方” 超入門』 アスキー・メディアワークス.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第5講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

1 課題1 マインドマップについて意見交換

各自が作ってきたマインドマップを見ながら、グループで意見交換する

- 5分程度で説明、そのあと意見交換
- 思いついたことはとりあえず口に出してみる
- この段階では、最終的なレポートの形や、厳密な理論展開や根拠については保留しておいてよい

2 課題2 問いと答えの表を作成

配布資料 (大島ほか, 2005) 参照

次回までに完成させて3部持ってくる(うち1部を授業後に提出)。

3 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法

- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか
- 直観と内省

推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

文献

日経 BP 社 (2010) 『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ) 日経 BP 社.

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂 (2005) 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房.

佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應義塾大学出版会.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 プロジェクトとしての研究

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 研究を完成させるのに必要なこと

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

前回資料参照

3 発表会

1/11の授業で、各自の研究成果について発表をおこなう

- 発表内容についての資料を人数分 (4?) 用意する (初回資料 にしたがって簡潔にまとめる)
- ペアを組み、互いに紹介する
- 紹介者から研究内容を紹介 (2分)、そのあと自由に質疑 (15分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい
- ペアと発表日は今日決定

4 口頭試問

授業最終週 (?) に、口頭試問をおこなう。1人15分程度。時間と場所はそれぞれ決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は、改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

口頭試問の際に提出された資料が、レポート確定版として成績評価の対象になる。

5 プロジェクトとしての研究

Project: 有期性と独自性という2つの特徴を持つ業務。「有期性」とは、明確な始まりと明確な終わりがあること、「独自性」とは、これまでにない新しい何かを創出する新規性があること。(花岡編, 2012, pp. 1-2)

通常は、企業の中でチームを組んでおこなわれる一連の仕事を指すことが多い。この場合は、人員や予算の制約がプロジェクトの管理の上で重要となる。

学生がひとりでおこなう研究の場合は、このような制約はあまり重要ではない。それよりも、自分の使える時間・体力・知識を正確に把握して、余裕をもって計画を立てる(進行状況を見て適宜修正する)ことが必要になる。

【課題2】この授業の結果報告(1/11)に向けてやらなければならないこととその時期的な見通しについて整理せよ。ガント・チャート(Gantt chart)の形で書くことを推奨するが、ほかの方法でもよい。

6 宿題

今回は、雑誌論文の探索をとりあげる。

東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』<<http://www.library.tohoku.ac.jp/literacy/kisochishiki.html>> から、「基礎編」「人文社会科学編」を入手し、次の部分を読んでおくこと。

- 基礎編: 2.3節(pp. 19-32), 3.1-3.4節(pp. 40-69), 4章(pp. 88-116)
- 人文社会科学編: 1章(pp. 2-12), 2.2.2-2.2.3節(pp. 27-41)

文献

日経BP社(2010)『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ)日経BP社.

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂(2005)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房.

花岡伸也(編)(2012)『プロジェクトマネジメント入門』(シリーズ新しい工学2)朝倉書店.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第7講 論文をさがす

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 とりあえず実習

国立情報学研究所「論文情報ナビゲータ」(CiNii: <http://ci.nii.ac.jp>) のサイトで、つぎの論文を同定する。

野江啓一「理性の外部としての異界」

この論文を掲載している雑誌 (の当該の号) がどこにあるかを東北大学附属図書館サイトで検索する (<http://www.library.tohoku.ac.jp>)。

2 CiNii の使いかた

2.1 CiNii とは

NII 論文情報ナビゲータ (Citation Information by National Institute for Informatics) <http://ci.nii.ac.jp>

国立情報学研究所 (NII) による論文検索用統合サービス。種々のデータベースの複合体である (http://ci.nii.ac.jp/info/ja/cinii_db.html)。→『情報探索の基礎知識』(人文社会科学編 p. 32)

検索は無料で、だれでも利用できる。抄録や本文などにアクセスできる論文もある (抄録・本文の閲覧は有料の場合と無料の場合がある)。

「ヘルプ」から、以下のことを調べてみよう：

- CiNii の成り立ちとデータの集めかた
- 「フリーワード」と「詳細検索」のちがい
- AND/OR 検索の方法
- 空白を含む文字列を指定する方法
- 長音符 (ー) のあつかい

検索結果は、通常は

- 論文名
- 著者名
- 雑誌名 巻号, ページ, 出版年

の順に表示される。情報が欠けている場合もある。抄録などが表示される場合もある

論文名のところはリンク情報になっており、クリックすると詳細が表示される。

全文ファイルがある場合は、全文ファイル (PDF など) へのリンクが表示される。有料の場合、支払手続きが必要である (クレジットカードも利用できる)。

他のデータベースの情報へのリンクがある場合もある。

そのほか、つぎのようなアイコンから各種のデータベースでその論文／雑誌の情報を探せる：

- **OPAC:** 東北大学図書館の所蔵情報
- **NDL-OPAC:** 国立国会図書館の雑誌記事情報
- **CiNii PDF:** 国立情報学研究所で提供している全文情報
- **機関リポジトリ:** 各大学等のリポジトリの全文情報
- **J-STAGE:** 科学技術振興機構が発行している電子ジャーナルへのリンク
- **CrossRef / DOI:** 様々な出版社が発行している電子ジャーナルへのリンク

左端の にチェックを入れた論文の情報をダウンロードすることができる。右欄の「書き出し」から「TSV形式」の情報を保存して、表計算ソフトに取り込むのがいちばん簡便。「Refer/BibIX形式」などの情報は文献管理専用ソフト用。

2.2 CiNii のデータ源

国立国会図書館「雑誌記事索引」(NDL)

日本国内で出版された出版物は、国立国会図書館におさめなければならないことになっている。この制度にしたがって納本された雑誌の論文・記事について、著者名・論文名・キーワード・年次などから検索できる。くわしくは http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_select.html 参照。 <http://opac.ndl.go.jp> から「雑誌記事索引の検索／申込み」をたどると、単独で利用できる。

- 1万近い雑誌から記事を採録
- 出版からだいたい2月以内で収録される
- 時々収録されていない論文がある(例:『日本語学』の1995年以前)
- 一般の雑誌を多数収録しているので、非学術的な内容の記事が引がかかることが多い
- 入力の精度はきわめて高い

研究紀要目次速報データベース／電子図書館サービス(NII-ELS)

学会や大学・研究機関が出版する学術雑誌について、各機関で入力したデータベース。最低限の書誌データしか入っていないものから、全文のPDFファイルが読めるものまである。英語の情報ももっていることが多い。各学会等で入力しているので、品質のばらつきが大きい(入力ミスが多いものもある)。2016年度末で事業が終了したので、今後データが増えることはないはず。

引用文献索引データベース(CJP)

自然科学分野の学術論文について、文献表に記載されたデータを入力したデータベース。入力の精度はきわめて低い。

その他

文献情報を公開している各種データベースから情報を取得している。ほかのデータベースと重複していることが多い。全文PDFなどが読めることも多い。

3 雑誌所在をさがす

3.1 冊子体の所在

CiNiiの検索結果に「OPAC」というアイコンが付いている場合、それをクリックすると東北大学附属図書館の所蔵検索ができる(東北大学内からのアクセスの場合のみ)。

東北大学附属図書館のサイト (<http://www.library.tohoku.ac.jp>) で直接検索することもできる。ISSNなどをひかえておいて、それでひくとよい。雑誌名で検索するときは、詳細検索で検索対象を「雑誌」に限定したり、フィールドを「書名(完全形)」に限定したりすると、ヒット数を減らせる。

「学外」にチェックを入れておくと、東北大学図書館内にない場合には、学外まで所蔵を検索してくれる(CiNii Booksによる)。くわしくは、『情報探索の基礎知識』(基本編3章)を参照。

3.2 電子ジャーナルの利用

電子ジャーナルとは

「冊子体の内容と同じ本文を、ウェブで利用できるようにしたもの」(基本編 p. 108)。通常、各論文がひとつのファイルになっている。近年ではPDF (Portable Document Format) 形式で提供されることが多い。印刷された冊子体の論文と同一のものとみなしていいことになっている。

印刷用のコンピュータ・ファイルを流用したもの

- ファイル・サイズが小さく、精度が高い。
- テキスト情報がふくまれるので、文字列検索ができる。

印刷物からスキャンしたもの

- ファイル・サイズは精度に比例する。こまかい文字の判別ができなかったり、汚れが写っていたりすることがある。
- 何種類かのファイル・サイズを選べることがある。
- OCR (光学的文字認識) で取得したテキスト情報をつけていることが多いが、一般に精度が低い。

電子ジャーナルの購読「契約」とは……東北大学内のコンピュータからファイルにアクセスできる(IPアドレスで識別される)。

契約していない場合でも、無料で提供されているものや、クレジットカード決済で購入できるものがある。

図書館で冊子体を購入していない雑誌であっても、電子ジャーナルの購読は契約していることがある。<http://www.library.tohoku.ac.jp/search/ejournal/> から探してみるとよい(学内限定)。

電子ジャーナルの探しかた

- 図書館WWWサイトの「電子ジャーナル」リストから(基本編 pp. 109-111)
- 図書館目録(Online Catalog) 検索結果から(基本編 p. 112)
- 検索エンジン Google や Google Scholar <<http://scholar.google.com>> など

各種文献データベースの検索結果からジャンプできることがある

課題: 教科書基本編 p. 109-111 にしたがって *Clinical Neurophysiology*, 117(3), pp. 668-680 の電子ジャーナル版論文を探してみる。

注意事項

電子ジャーナルはふつうの冊子体とは利用マナーが違うので、注意事項をよく読んでから使うこと。特に、雑誌全体をブラウズすることは認められていないので、注意。

3.3 その他の電子論文

オンライン雑誌 (冊子体が発行されないもの) は通常「電子ジャーナル」とは呼ばれない。

著者やその所属機関が雑誌投稿前の原稿 (preprint) や掲載決定後の原稿 (postprint) を公開している場合がある。Working paper, Self-archiving, E-print などと呼ばれる。これらについては、雑誌に掲載された論文との同一性の保証がないことに注意。内容についての参考にはなるが、引用する際には正式の版 (雑誌の冊子体または電子ジャーナル) を利用すること。

例：東北大学機関レポジトリ TOUR <<https://tohoku.repo.nii.ac.jp>>

これらのファイルをさがすには、現在のところ、Google Scholar <<http://scholar.google.com>> がいちばん便利である。

3.4 学外の所在をさがす

附属図書館 OPAC で検索するとき「学外」にチェックしておく。または、CiNii Books 検索：<http://ci.nii.ac.jp/books> (by 国立情報学研究所)。いずれの場合も、NACSIS ID を控えておく (AN10091189 のようなやつ)

4 論文の入手

- 電子化バージョンにアクセスできる → そのまま download あるいは印刷
- 東北大学図書館本館にある → 借り出し (たいてい2号館にある)
- 東北大学内の研究室など → きいてみる (貸してもらえないこともある)
- 他の大学図書館など → 複写または貸借 (レファレンス・デスクで申し込む：有料)。

東北大学図書館では オンラインでの複写・貸借申し込みサービス も行っているの、それを利用してよい。『情報探索の基礎知識』 付録7「相互利用サービス」および基本編 pp. 11-12 の MyLibrary の説明を参照。

5 論文種別の確認

- Peer Review 制の雑誌か → その雑誌の投稿規程などを見る
- 研究ノート、調査報告など → 通常、論文タイトルのところに併記されている
- 投稿論文／依頼論文 → 「特集」の論文は、通常は依頼論文。論文タイトルのところに「投稿論文」と書いてあったり、編集後記などに言及があったりする。雑誌によってはほとんどが依頼論文という編集方針のものもあるので、投稿規程があるかどうか確認する。

6 参考 URL

日本語教育学研究室「学生のための研究の手引き」 <<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/>> (ふるい情報も含んでいるので注意)

現代日本論基礎講読「研究法入門」

発表会

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] レポート内容について発表と質疑応答

1 各自の研究成果について発表

- 発表内容についての資料を人数分 (3部) 用意する (初回資料 にしたがって簡潔にまとめる)
- ペアで互いに紹介する
- 紹介者から研究内容を紹介 (2分)、そのあと自由に質疑 (15分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい

2 口頭試問について

- 1人あたり 15分程度
- 時間と場所はそれぞれ決める
- 発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は改訂後の資料を持ってくること (この場合には、改訂後の資料を、レポートの確定版として採点の対象にする)
- レポートについていろいろなことを聞くので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと